

AAS チャレンジ要約特訓（令和8年度）

● チャレンジ要約特訓（令和8年度） ～日々の真剣勝負～

チャレンジ要約特訓では、新聞のコラム等の文章を読み込み、「文章全体の要約」を「40文字以内」でまとめる訓練を行います。この訓練の目的は、説得力ある文章表現を行うための基礎力となる「論理的に読み、論理的に書く力」のスキルを高めることです。

AASからは毎日問題を発信し、受講生の皆様は要約案をWeb上で日々エントリーしていただきます。講師陣からは、投稿締め切り後の翌々日に「講師要約案」を配信させていただきます。さらに、毎週火曜日の投稿に関しては、AAS熱血講師陣が要約案と解説を提示し、受講生のエントリーを評価していきます。

○毎日

①問題発信

②投稿

③熱血講師からの要約案配信

○毎週火曜日

①問題発信

②投稿

③解答解説発信

④振り返り

みなさま、こんにちは。AASチャレンジ要約特訓クラスの田畑です。

中小企業診断士試験において合格答案を作成するには要約力は欠かせません。過去の本試験においては、80字や100字で解答するパターンが多く、与件に記載されているポイントを的確に表現するための要約力が試されていました。合格答案作成には、要約力が必ず必要と言っても過言ではありません。

その要約力を鍛えるのが、この「AASチャレンジ要約特訓」です。

文章を論理的に書くには論理的に読む力も必要です。

「チャレンジ要約特訓」この「読む力」と「書く力」を鍛えていきます。

文章を読み解く力と書き切る力を向上させたいと考えているあなた。1日150円で要約力を鍛えることができます。

● 受講料（消費税別途）

1月開始：42,000

2月開始：42,000

3月開始：41,000

4月開始：40,000

5月開始：39,000

6月開始：38,000

7月開始：37,000

8月以降開始：36,000

～ お問合せ・お申込み先～

AASのホームページより、お問合せやお申込みを行うことができます。講座に関するより詳しい情報や2次対策に役立つ各種情報を掲載しておりますので、ぜひご訪問ください。

1. はじめに

国語の基本である読み書きは、人にモノを伝える時の基本です。

診断士2次試験においても、読み書きは重要なスキルです。合格するためには、解答の内容うんぬんの前に出題者の書いている与件文や設問文の意味を正しく読み取る必要があります。

さらに、そこから導きだされた解答を採点者にわかりやすく伝える必要があります。読み書きの基本が出来なければ、出題者や採点者とのコミュニケーションは取れません。すなわち採点者にあなたの気持ちが理解されず、受け付けてもらえない＝合格できない、ということです。

「チャレンジ要約特訓」では、日経春秋などの課題の要約を通じて正しい文章の読み方やロジカルな文章の書き方をトレーニングしていきます。まさに「国語の基礎＝合格するための基本」そのものを勉強していきます。

『国語の基本なんか判っている、今更やる必要なんかない。』と思われるかもしれませんが思い込みをせずに客観的に与件の文章を読んだり、誰にでもわかりやすい文章を書くことは思いのほか難しいものです。合格に向けて、自分の読み書きの癖を再確認する意味でも、国語の基本に忠実に練習していきましょう。

これまでも多くの合格者が要約練習の価値を実感してきました。

あなたも、これからの約10ヶ月でその価値を実感し合格を勝ち取ってください！！

2. 配信スケジュール

【毎日要約特訓】

毎日、問題を配信しますので、翌日中に要約案を投稿してください。講師陣からは、翌々日に要約案を提示させていただきます。講師要約案や他の受講生の要約案とご自身の投稿を見比べて、思考プロセスを確認してください。2月から本試験当日まで毎日問題を配信します。申込みいただくと、その日から直ぐに投稿が可能となります。

※1月はプレ受講期間となります。講師からの要約案は、2月1日（日）から投稿します。

【チャレンジ要約特訓】

さらに、毎週火曜日の投稿に関しては、AAS熱血講師から模範要約案とその解説及び投稿された要約案の評価結果を講評させていただきます。全37回を予定しています。

回数	問題発信日 投稿締切日	解答解説 UP
1	2月3日	2月10日
2	2月10日	2月17日
3	2月17日	2月24日
4	2月24日	3月3日
5	3月3日	3月10日
6	3月10日	3月17日
7	3月17日	3月24日
8	3月24日	3月31日
9	3月31日	4月7日
10	4月7日	4月14日
11	4月14日	4月21日
12	4月21日	4月28日

13	4月28日	5月5日
14	5月5日	5月12日
15	5月12日	5月19日
16	5月19日	5月26日
17	5月26日	6月2日
18	6月2日	6月9日
19	6月9日	6月16日
20	6月16日	6月23日
21	6月23日	6月30日
22	6月30日	7月7日
23	7月7日	7月14日
24	7月14日	7月21日
25	7月21日	7月28日
26	7月28日	8月4日
27	8月4日	8月11日
28	8月11日	8月18日
29	8月18日	8月25日
30	8月25日	9月1日
31	9月1日	9月8日
32	9月8日	9月15日
33	9月15日	9月22日
34	9月22日	9月29日
35	9月29日	10月6日
36	10月6日	10月13日
37	10月13日	10月20日

※試験日を10月25日と想定したカリキュラムです

3. 要約の方法

チャレンジ要約特訓に挑戦するにあたって、どのように文章を要約していけばいいのか、その方法を解説します。

ところで、皆さんは次のような問題を感じたことはありませんか？

- 与件や設問題意を正しく読めない。
 - 事例テーマが読めない。
 - 読み逃しをする。
 - 与件から時間内に情報を探せない。
 - 解答をうまくまとめきれない。
 - 何が言いたいのか判り辛い解答になる。
 - 具体性のない解答になる。
- などなど。

以上のような「読み書き」の問題で苦勞している方は結構多く居られます。これを解決する助けとなるのが「チャレンジ要約特訓」です。

この「チャレンジ要約特訓」は、文章要約の練習です。文章要約は、小学校時代に学校で習いましたね。読み書きの力を鍛える基本的な練習法です。「チャレンジ要約特訓」では、国語の基礎力強化だけでなく、事例で守るべきポイント（与件引用、客観性、具体性、ロジカルな表現等）の要素も加えながら練習していきます。

具体的には次の効果があります。

<チャレンジ要約特訓で鍛えられること>

- ・文章全体の論旨を捉えるので、事例の全体テーマを捉える練習になる。
- ・文章全体を客観的に読み、まとめるので、思い込みせずに事例を読む練習になる。
- ・筆者の真意をくみ取ろうと一言一句注意深く読むようになるので、事例の文章を注意深く読む練習になる。
- ・文章の背景（きっかけ）や必要キーワードを入れてまとめるので、抽象的でなく具体的な解答を書く練習になる。
- ・600字余りを40字にまとめるので、言いたいことを短文化する練習になる。
- ・ロジックを意識して書くので、誰が読んでもわかりやすい解答を書く練習になる。

このような効果は、実践しながら徐々に体感していくわけですが、まずは子供の頃に立ち帰り、国語の基本を思い出していきましょう。つづいて読み書きの基礎力を高め、試験への対応力も高めていきましょう。

■要約とは

文章のポイントを短くまとめて示すことです。

すなわち、長い文章全体から不必要な文章を取り除き、「裸の文章」にすることです。

まとめるべきポイントには大きく次の2つがあります。

- ①筆者の主張＝筆者が感じ、述べたいと思ったこと。
- ②文章の背景＝筆者がその文章を書こうと思ったきっかけとなる出来事。

ともすると、①の主張文だけでまとめてしまいがちです。字数制限の問題などありますが、できるだけ②文章の背景を入れ、何についての話か、どんな背景での話しか、なぜそういった主張になるのか、読み手にわかりやすいようにまとめましょう。

※ただし、筆者によっては①の主張部分が重く、背景を入れられない場合もあります。判断の仕方はその都度ご説明します。

■要約の方法

盛り込んでいただきたい内容は次の3点です。

- ①筆者の主張文（最終的に言いたい結論）
- ②筆者が書こうと思ったきっかけや背景
- ③その他①と②を修飾する言葉

要約の方法は、まず①→②の優先順位で基本的な文章を作ります。その後③で①、②を修飾しながら、40字の中に文章全体を短くまとめていきます。

原文に使われている言葉（キーワード）の字数がやたら多い場合もあります。最悪の場合、①筆者の主張文だけを書くだけでやっと、ということもあります。少しでも原文全体のニュアンスを盛り込むようにがんばってみましょう。どんなキーワードを盛り込めば良いか、その都度じっくり考え検討する、これが国語力強化につながります。

■要約実施上の留意点

①自分の主観を入れず、客観的に筆者の書いているポイントをまとめましょう。

自分の考えを入れるのは読み手であるあなたの「感想文」であり要約とは言いません。

例) 原文は「〇〇してはどうだろう。」と投げかけの表現だけになっているのに要約の時点で主観を入れ「〇〇するべきだ。」とまとめてしまうのはダメ！

ただし、同義になる変更はOKです。

例) 「〇〇してはどうだろう」→「〇〇するのが良いかもしれない」なら、「良いかも」という言葉を筆者の提案と捉え、OKの範囲とします。

②文章の背景（筆者が書こうと思うきっかけになる出来事）は、字数が許す限り入れましょう。

具体的な背景の無い文は、抽象論や一般論になってしまいます。何についての話か、具体的に示し、「原文を読まず、要約だけを読んだ人にも、何の話かわかる。」ようにしましょう。

③できるだけ自分の言葉でまとめましょう。

本文を抜き出しただけの文章は要約とは言いません。与件（本文）の言葉を上手に引用しながら、ポイントをまとめていきましょう。

また、比喩をそのまま使用することもNGです。比喩は筆者が言いたいことを伝えやすくするために表現手法として用いるものです。要約に比喩を盛り込むと、更にその比喩で使用した意味の説明が必要になります。比喩をそのまま、は具体性もなくなりますので、可能な限り誰にでもわかりやすい、客観性の高い表現に言い換えてみましょう。

④要約はロジックを意識して、文を作成するようにしましょう。

因果（何なので、何だ。）や単文（何が何だ、何はどうだ。）など、読み手へのわかりやすさを意識して、主語と述語の間に飛躍やねじれがないように書きましょう。

⑤筆者によって、文調や表現手法、わかりやすさが異なることも覚えておきましょう。

新聞のコラムは複数の執筆担当者により書かれています。表現に癖もあります。また、書き手も人の子、一貫性がなく『何を言いたいのかさっぱりわからん！（怒）』と思える文章もあります。その場合はもともと要約が困難な文章ですので、できないからといってどうぞ御気になさらずに。リラックスして練習していきましょう。

留意点を挙げればきりがありません。残りは今後の解説の中で徐々に説明していきます。

■「チャレンジ要約特訓」投稿ルール

投稿のルールは以下となっています。厳しいですが、がんばっていきましょう！！

①制限時間 15分

②投稿回数 1回

③教材参照 無し

以上、要約の方法を説明いたしました。

<メモ>

■考え方

①全体を一気に要約する前に各段落を要約します。

●第1段落

昨年の暮れ、長崎で被爆した片岡ツヨさんと沖縄戦にひめゆり学徒隊として動員された宮城喜久子さんの2人の語り部が亡くなった。(導入部)

●第2段落

語り部の人たちの高齢化を止めることはできず、元ひめゆりの学徒が修学旅行生に直接語ってきた講話が今年3月までで終了してしまうなど、切迫感のようなものをおぼえる。(導入部からの展開)

●第3段落

苦難の道を歩んだ先人たちの言葉は、書物や映像とはまた違った迫力で、受けとる側の胸に響く。戦争だけでなく、水俣病やハンセン病での過ちを繰り返さないためにも、風水害や地震の被害を抑え込むためにも「聴く」べき話が、たくさんあるに違いない。(背景)

●第4段落

思えば日常を生きる私たちも、自らの奮闘記や失敗談、若いころの夢や武勇伝など次の世代に伝えられる話を語ってみてはどうだろうか。(主張)

②次に話の流れ(ストーリー)を追いかけていきます。

ここでは、話の因果を中心に流れを捉えることが重要となります。因果を無視した言葉の羅列だけでは、説得性のある文章にはなりません。この点は、是非注意してください。

第1段落 長崎と沖縄で二人の語り部が亡くなったことに触れ、今回の「語り継ぐ」というテーマへの〈導入部〉としています。

第2段落 その語り部が高齢化してきており、切迫感を感じると語り継ぐことの重要性をここで訴求しています。

第3段落 語り継ぐ話には、戦争体験だけでなく公害や自然災害の体験などがあり、聴くべき話はたくさんあると、筆者の主張の背景を説明して第4段落につなげています。

第4段落 「思えば」という接続詞を用いて話を一気に自分事へと展開し、「常を生きる私たちも、自らの奮闘記や失敗談、若いころの夢や武勇伝など次の世代に伝えられる話を語ってみてはどうだろうか」と筆者の〈主張〉(思い)を伝えています。

③主張文を抜き出し、背景やきっかけを盛り込みながら 40 字に要約します。

では、実際に文章の流れを踏まえたうえで、主張文を基に 40 字の文章を組み立てていきましょう。主張文は、筆者が一番伝えたかったことです。今回は、「会社の後輩に自らの奮闘記や失敗談を、家で子どもに若いころの夢や武勇伝を語ってみてはどうだろうか」でした。

この一文は、文章としての意味は分かりますが、「ふーん、そうだね」というレベルで、「ずばり、筆者の思いが伝わってくる」納得感のある文章ではないと感じませんか。それはなぜでしょう。その理由は、文章に「深み」がないからです。「文章の深み」とは、筆者がなぜそれを伝えようとしたのか、その「きっかけ」や「背景」まで伝えることで生まれます。ということは、要約案には、筆者が主張したいことに対する「きっかけ」や「背景」を埋め込むことが必要となります。先ほどの、「会社の後輩に自らの奮闘記や失敗談を、家で子どもに若いころの夢や武勇伝を語ってみてはどうだろうか」という一文には、「きっかけ」や「背景」がありませんでした。そのため、深みを感じるができなかったのですね。

では、早速「きっかけ」や「背景」を探しに行きましょう。まず、主張文の1文前にある「私たちにだって」とあります。ということは、私たち以外に語る人がいるということですね。その人は、第3段落に「苦難の道を歩んだ先人たち」と記載がありました。具体的には、第1段落から繋がっている戦争や公害及び自然災害を経験した「語り部」の方たちのことです。では、「奮闘記や失敗談、夢や武勇伝」とは、どういうことでしょうか。それは、「語り部」と「私たち」の間で共通している「胸に響く話」のことでした。これらの背景を要約案に埋め込むことで、文章の深みが増し納得感のある 40 字の要約案とすることができます。

なお、「携帯電話やメールではなく、直接語り合う」一文も筆者の思いと言えるでしょう。しかし、この4段落に渡って作成した文章の流れの中で、これが「本当に言いたかったこと」なのかどうかと考えると、あくまでも主張の補足と捉えることが妥当だと判断しています。「本当に言いたかったこと」とは、「シンデレラエクスプレスで別れ際に伝えたい言葉」のことです。最初は、主張を捉えることが難しく感じるかもしれませんが、「4段落を通じて、本当に言いたかったことは何なのか」と自問自答することで、自然と主張を浮かび上がらせることができます。

★今回のAAS要約案

語り部など苦難の先人だけでなく、**日常の私たちも胸に響く話を次の世代に語り伝えたい。**
(40字)

【要約に盛り込みたいワード】

- 主語（または主部）：日常の私たち
- 述語（または述部）：次の世代に語り伝えたい
- 目的語（何を）：胸に響く話を
- その他のキーワード（背景）：語り部など苦難の先人だけでなく

以上、具体的な思考プロセスを解説しました。

このようなプロセスで要約することにより、長い文章を把握する力が眼に見えて向上すること間違いありません。

■採点

このAASの要約案を基に、投稿された要約案を採点していきます。採点の方法は以下の通りです。

【採点基準】

主な採点基準は次の通りです。

1. キーワードが入っているか
(筆者の主張や背景、及びそれを修飾する言葉が入っているか、など)
2. ロジックは正しいか
(因果がある、主語と述語のよじれがない、など)
3. 具体性、客観性があり、誰にでもわかりやすい表現か
(比喩を用いたり、自分の意見を入れていないか、など)

【今回の採点基準ポイント】

○今回のポイントは次の3点です。

①話の核

筆者の主張(思い)である「日常の私たちも次の世代に語り伝えたい」ということが話の核となっていること。

②目的語(何を)

語り伝えることが、「胸に響く話」であることが判る文言が記載されていること。

③その他

私たち以外の人として「語り部など苦難の先人」が記載されていること。

○入賞の評価基準は次の通りです。

- ・優秀賞以上：上記①②③が満たされているもの
- ・佳作：上記①②③は満たされているが、文章の因果が見えにくいものや具体性に欠けるもの
なお、要約案を2文にすることはNGとしています。なぜなら、2つの文章の繋がりが分からないためです。2つの文章の因果関係をはっきりとさせるためにも、40字を一つの文章で書き切るようにしてください。

5. 最後に

「継続は力なり」と世間では言いますが、「継続こそが力の源泉」と言っても過言ではありません。みなさんの力を信じています。

10月の本試験まで、一緒にがんばってまいりましょう！！

AAS 田畑一佳

<メモ>

<AASチャレンジ要約特訓を受講するにあたっての注意事項>

1. SNS使用にあたり、特定の個人や団体に対する誹謗中傷と思える発言は厳禁です。またメーリングリストや掲示板への発言は不特定多数の人が目にするものであることを認識し、他を傷つけたり不快な気持ちを抱かせることのないよう、投稿内容や発言する上での言葉遣いなど十二分に配慮をお願いします。メッセージのスタンスは、「ネガティブ」でなく「ポジティブ」に！です。
2. 「AASチャレンジ要約特訓」で提供する情報の著作の権利は、AASに帰属します。したがって、配信した情報を本人以外の第三者に転送したり、パスワードを第三者に知らせたり、コピーをして他人に配布すること等は一切できません。提供される情報は講座を申し込んだ本人のみの使用といたします。
3. 故意に、上記の著作権を侵害する行為等を行った場合は、AASから損害賠償請求の責を負うと同時に受講の中止をさせていただきます。また、このことは、受講期間が修了した以降も同様とします。ただし、受講生本人の責に起因しない場合、盗難等予期せぬ場合はこの限りではありません。
4. 「AASチャレンジ要約特訓」にて、講師と受講生の間で相互に提供される情報・資料は、AASの判断により、他の書籍および通学講座などで一部使用するものがあります。予めご了承をお願いします。
5. オープンなコミュニケーションの確保のため、受講生の個人情報であるメールアドレスや氏名をクラス内でのみ共有させていただきます。

<以上>